

## 1 全教職員が課題と具体策を共通理解する

各学級には、それぞれ文化やルールがあります。帰りの会で、友達のいいところを紹介する学級もあれば、学級の歌を合唱する学級もあります。毎日、様々な出来事を通して様々な約束が生まれます。

教職員にも個性があります。厳しい先生もいれば、やさしい先生もいて、その先生ならではの指導方法があります。

しかし、学校として一貫した生徒指導を確立する上で大切なことは、全教職員が学校の教育目標を踏まえ、学校全体の課題や具体策を共通理解した上で、学級づくりに励み、個性あふれる指導を行うことです。

### 学校全体で進める生徒指導

教員一人一人の努力を生徒指導の目標の達成につなげるには、学校全体の共通理解と取組が不可欠です。そのためには、生徒指導が学校全体として組織的、計画的に行われていくことが必要になります。すなわち、学校経営の中に生徒指導の視点がきちんと位置付けられ、それに基づいた学年や学級経営が行われ、さらには個々の指導が行われていくという流れが大切なのです。

### 教員による共通理解

学校に在籍しているすべての児童の生きる力を伸ばすために、教職員は学校の教育目標、指導の重点目標、具体的な指導・対応方法などに対して共通理解を図る必要があります。

それぞれの学級集団ごとや、一つの学級集団においても、学級担任とその集団に関係している担当教員間で、指導する基準が異なっている場合は、よい集団の環境であるとは言えません。

(生徒指導提要より)

### 【具体的な実践事例】

- 学校の教育目標を踏まえ、各学年においてどのような児童を育てるのかについて、全教職員による協議を通して明文化する
- 実態把握によって導かれた課題に対する具体策として、どのような指導体制を構築し、どのような教育活動に取り組んでいくかについてアイデアを出し合う場を設ける
- 小中連携による9年間を見通し、それぞれの発達の段階における課題や対応策を協議する

### 実践事例①：毎週、指導方法・指導基準を確認し合う

ある学校では、全教職員が毅然とした態度で一貫性のある指導ができるよう、毎週共通理解と自己点検に努めています。

(毎週水曜日に全教職員が行っていること)

- 協議の場である「連絡会」を開催し、下の例のような協議を通して指導方法・指導基準を共通理解する
- 各自がチェックシートを用いて、一貫性のある指導が行えているか自己点検する

筆箱などにたくさんのキーホルダーを付けている児童が増えているのが気になります。

学習に集中できるように全校のルールを決めましょう。次の全校集会で説明しましょう。

#### 【共通理解事項】

授業中気が散ったり物にひっかかったりするので筆箱にキーホルダーは付けません。

協議例①

登下校時の防寒着を学習中にも着用している児童がいます。学級によって指導がばらばらになってしまっているようです。

着用している児童の中には体調の悪い子もいるのではないのでしょうか。

#### 【共通理解事項】

防寒着着用は登下校時に限る。体調不良の児童は保護者と連絡をとり着用を認める。

協議例②

## 実践事例②：指導の基準を明文化し共通理解を図る

ある学校では、集団生活のルールを徹底するために、全教職員で児童の生活のきまりを見直しました。そして、全校児童が共通に取り組む重点指導事項を検討した上で、生徒指導部会が下表のような具体的な指導の基準を作成し、児童や保護者にも周知しました。

### 【生徒指導

#### 5項目】


#### ①あいさつ

#### ②廊下歩行

#### ③時間を守る

#### ④黙目清掃

#### ⑤靴の整頓

	レベル1	レベル2	レベル3	最高レベル4 
あいさつ	・相手に聞こえる声で、あいさつを返すことができる。	・仲よしの友達に、自分から目を見てあいさつができる。	・校内で会った人（他の学年、先生）に、自分から目を見てあいさつができる。	・だれにでも（地域の人など）自分から目を見てあいさつができる。 ・あいさつ運動に進んで参加してあいさつができる。
ろう下を歩く	・集会に行く時は、ならんで右側を静かに歩くことができる。	・教室移動の時は、ならんで右側を静かに歩くことができる。	・休み時間やトイレに行く時なども、右側を静かに歩くことができる。	・校内では、いつも右側を静かに歩くことができる。 ・ろう下を走っている人に歩くように声をかけることができる。
時間を守る	・チャイムの合図で席に着いたり、そうじ場所に行ったりできる。	・自分の席やそうじ場所でチャイムを聞くことができる。	・○分前行動を心がけて準備を整え、チャイムの合図でいつも始まったり終わる。	・○分前行動を心がけて準備を整え、チャイムの合図でいつも始まったり終わる。

それぞれの項目については、毎月重点化を図る週間を決めて指導の徹底を図っています。

また、指導に当たっては、毎月一度、職員会議で、児童の状況とともに、基準に基づいた指導が徹底できているかを点検し合っています。さらに、レベルアップのための具体的な指導の工夫や指導の基準の妥当性等についても話し合っています。

全教職員が同じ課題に向かって見通しを持って取り組むことで、規範意識を醸成しようという意識が学校全体で高まりました。児童も「今度はレベル3になりたい」などと具体的な目標を持って行動できるようになってきています。

## 効果を上げるためのチェックポイント

### ○ 年度末や年度初めに、指導の基準を具体的に協議し、共通理解する

年度初めは、入学式等の学校行事があるとともに、各学級においてもしなければならないことが多く、落ち着いて生活することが難しい時期です。しかし、どの児童も、新たな学年に進級しこれまでの自分からさらに成長しようという意欲にあふれているこの時期こそ、社会性や主体性をはぐくむのにふさわしいといえます。また、教職員にとっても、どのような児童を育てるのかについて見通しを持つ大切な時期です。

前年度の状況を踏まえた上で、今までの基準を見直した上で新たな基準を確立し、教職員が共通理解するとともに、児童や保護者にも周知し理解を図っておくことが大切です。

### ○ 児童の課題や実態に応じた改善策となり得ているか問い続ける

年度が変わり学級担任や学級集団が変わると、前年度までの課題が解消する一方で異なる課題が生じるということがあります。また、共通理解し合った改善策に全教職員がしばらく取り組んでいるものの効果が上がりそうにないといった状況に陥ることもあります。

年度当初に考えていた指導の方針や改善策を大切にしつつ、日々変化する児童の実態に応じた指導を行っていく必要があります。生徒指導部や全職員の協議の場を定期的に持ち、取組状況とその成果を確かめ合っていくことが大切です。

## 2 校内研修で教職員の資質能力の向上を図る

今日、小学校の生徒指導が抱える課題は、複雑化・多様化してきています。それに伴い、目の前の児童の成長を願う学級担任には、日々の教育活動に対して様々な問いが生じます。

「感情のコントロールができなくなった児童にはどのように対応すればよいのか」

「どの子ども学級の仲間とうまくかかわれるようにするにはどのような方法があるのか」

「1年間、道徳や学級活動で大切にすべきことは何なのか」

こうした問いを解決し、教職員の資質能力の向上を図るためには、校内研修が重要です。

校内研修では、全教職員が組織的、計画的に行う研修と、生徒指導担当教員や若年者等、特定の教職員だけで行う研修が考えられ、研修内容や研修方法も多様です。

学校の実態や教職員のニーズに合った研修を計画的に実施する必要があります。

### 校内における研修 —全教員が参加して行う研修—

学校内において実施する研修は、同じ学校という組織において教育に携わる教員たちが行うという点に特徴と意義があります。したがって、理念や教育方法、生徒指導の方針・基準などについての共通理解を図り、日常的な指導のための共通基盤を形成することを目的とします。そのため、生徒指導を担当する教員や管理職だけでなく、全教員が参加して行うことが必要です。年度や学期などの初めに実施計画を立て、協議内容についてもあらかじめ決定しておくことが大切です。また、特定の教員による講話や資料提供だけでなく、全教員が主体的に参加しそれぞれの職務の遂行に反映できるように、参加型研修や小グループごとの事例研究など、研修方法にも工夫が必要です。

(生徒指導提要より)

### 【具体的な実践事例】

- 専門家等の外部講師を招へいして、児童理解や新たな指導方法に関する専門的な研修を行う
- 生徒指導や道徳・学級活動に関する年間の計画や共通理解事項に関する協議を行う
- 具体的な指導方法について教職員一人一人の力量が高まるよう参加型の研修を行う
- 小グループで実際の事例を持ち寄り、よりよい指導方法を協議する

### 実践事例①：若年教員が日々の課題と指導方法を学び合う

#### ◆早朝ゼミの実施

ある学校では、毎週水曜日の早朝（7:30～8:00）に5年経験者程度までの教員が自主参加の研修を行っています。自らテーマを設定し、年間を通して課題が達成できるよう取り組んでいます。これまでに取り上げたテーマは、発問、懇談会の進め方、サービス、教科指導等です。

#### ◆友達関係調査の結果分析による学級経営の改善

ある学校では、校内研修において、学級の児童の状況と今後の学級経営の方針をポスターセッション形式で発表し、検討し合っています。

この場を通して、気になる児童にどのようにかかわるか、今後どのように学級経営を改善するか等が明確になっています。



## 実践事例②：道徳の指導内容の重点化について学ぶ

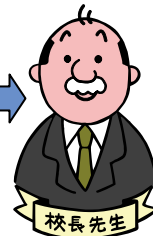
学校教育が組織的・継続的に実施されるためには、学校教育目標や生徒指導上の課題（目標）を設定し、その達成を図るための教育課程を編成することが重要です。

ある学校では、年度初めに次のような過程で研修を行うことで、全教員の道徳教育についての理解を深め、学校・学年としての目標や内容の重点化について共通理解を図っています。

### ◆校長の示す方針を全教職員が理解する

- ・児童の実態
- ・家庭・地域の実態
- ・教職員の願い
- ・家庭・地域の期待
- ・社会的な要請

- 学校の教育課題
- ・基本的な生活習慣
- ・規範意識
- ・安全確保
- ・家庭・地域との連携



学校を取り巻く諸事情を踏まえ、学校の教育目標や課題とのかかわりにおいて、校長が方針を明示しました。これを受け、道徳教育推進教師を中心とするチームが道徳教育目標や各学年で重点化すべき内容を構想しました。

- 道徳教育推進教師を中心に、協働的な指導体制を確立しよう。
- 児童が自己の生き方について考えを深められるよう、道徳の時間の指導を工夫しよう。
- 道徳実践の場として、特別活動の指導や日常生活の在り方を見直そう。
- 道徳教育について、家庭・地域との連携を図ろう。
- 全体計画等を見直そう。

### ◆大学教授の講話を基に、道徳教育の指導計画を見直す

本校の道徳教育の目標文には、「自らを律すること」「友だちの気持ちや立場を理解すること」「生命を尊重すること」「約束やきまりを守ること」が盛り込まれています。これらの価値項目について、各学年の指導計画において重点化すること、さらには指導時期を揃えるなど学校あげでの重点化を工夫することが必要です。



大学教授を招いての研修

校長の方針を受けて設定した道徳教育目標と各学年で重点化すべき内容がどのような関係にあればよいのか、重点化にはどのような方法があるのかについて指導を受けました。

### ◆全教員による協議を通して各学年の年間指導計画を確立する

- ・重点的に指導するのは、「自主・自律」「自他のかかわり」「友情・協力」「生命尊重」「規則尊重」
- ・1年～6年まで、同時期に位置付けるのは「規範意識」と「生命尊重」
- ・他の3つについては、児童の実態等に応じて指導する
- ・道徳の時間を中心に、特別活動や生徒指導も見直す

講話を受けて、推進チームや各学年団が計画の修正を行いました。そして、それらについて全教員で協議し、年間指導計画を確立しました。

## 効果を上げるためのチェックポイント

### ○ 新たな視点に立ち、これまでの教育活動を問い直す

各学校における道徳や特別活動（学級活動等）の指導計画や指導方法の基本概念は長年の積み重ねによりほぼ確立されています。教職員一人一人の授業づくりや児童へのかかわり方もベテランになるほど確立されています。こうした状況は、時に「ずっとこの指導内容・指導方法でやってきた。これが最良である。」という思い込みや取組の停滞を招きます。

そうした中、研修における他者の見方・考え方、とりわけ外部講師の意見は、新たな視点を投げかけてくれます。その視点から、これまでの教育活動を振り返り問い直してみる。そうすることで、新たな取り組み方が見えてくるかもしれません。